

# アートによる伝承の効果～伝承館でのコラージュ制作を通して～

(気仙沼高校・2年4組29番)



## 1. 目的

アートワークショップを伝承活動に組み込むことで得られる利点を明らかにする。

## 2. 背景

- アンケート結果(気仙沼高校生・185名)  
「防災や震災伝承に興味がある」=65%
- 「アートは、人々に柔軟な考察力を可能にすると同時に、内的な豊かさ、身体的な活性化などをもたらす。」(川原, 2021)  
⇒アートの利点を利用した新たな伝承方法を提案することで震災の風化防止に繋げたい

## 3. 調査方法... 参与観察

### 『震災伝承×アートワークショップ』を開催

日時: 2021年12月11日(土)午前9時～午後0時  
場所: 気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館  
参加者: 大人(2人) 高校生(5人) 小学生(1人)  
制作物: コラージュアート  
...素材を切り貼りして作るアート作品

- 作業が簡単
- 描画が苦手でも取り組みやすい
- 幅広い年齢の方が行える



～ワークショップの流れ～

- ①説明(事前アンケート)
- ②震災映像を見る  
...映像シアターにて約13分間の映像視聴
- ③館内を周り写真を撮る
- ④作品のアイデアを書き出す
- ⑤作品づくり
- ⑥作品の鑑賞会  
...作品から感じたことを書き込んでもらう。
- ⑦自分の作品のキーワードを考える  
...作品の『題』ではなくその作品を通して『伝えたいこと』『思い』をキーワードとして挙げてもらう。
- ⑧振り返り(振り返りアンケート)



## 4. 調査結果

### I) 参加者が撮影した写真

	撮影箇所	撮影人数
車	2	5
散乱した教科書	1	2
教室	1	1

- ・車(大人2人・高校生2人・小学生1人)  
年齢関係なく身近なもの
  - ・散乱した教科書(高校生2人) 学生の身近なもの
  - ・教室(高校生1人)
- ⇒写真が多く撮られた箇所は伝承館を回った人が特に印象に残る箇所だといえる

普段とのギャップ

## 5. まとめ

新たな視点から震災を捉えなおすことでそれぞれの震災観の充実が図られ意欲の向上とともに次につなげる効果がある。

## 6. 今後の展望

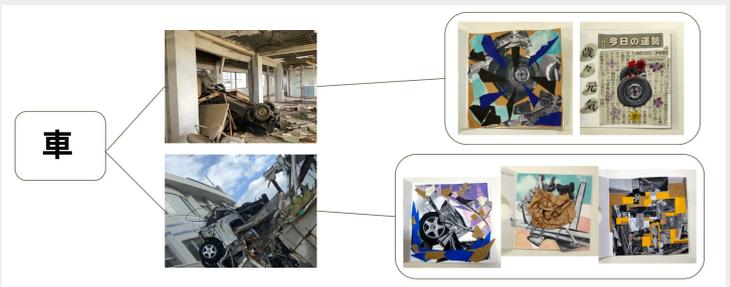
- ・アートの目線からの意見を頂く
- ・参加規模を広げたワークショップの開催(3月)

### 参考文献

- ・河原啓子. 2021『超高齢化社会におけるアートの存在意義』. 研究紀要. 国立音楽大学.
- ・気仙沼高校生 1～3年対象アンケート実施(2021. 10月13～18日)

## II) 参加者が制作した作品

作品の分別(例: 車)



- ・同じ場所でも人によって想像される物は大きく異なっている
- ・年齢、震災経験の有無はあまり作品に反映されない

## III) 参加者の感想の類型化(出典:参加者の感想(斜体))

- ・自分の中の震災観を見つめ直したり発見する
- ・アルバムをめぐるような懐かしい気持ち

### ⇒ 振り返り思い直すきっかけ

- ・伝承館をまわる時も「どのシーンを使おうかな」とか「どうやったらこのリアルが伝わるかな」と考えながらまわることができました

### ⇒ 伝承館の新しい見方(価値の変化)

- ・震災についてじかにふれる(直接的な体験)
- ・あらためて震災についてくわしく知る必要がある

### ⇒ 自分事として捉えなおすきっかけ

- ・なにかのはしわたしになるようなはたらき
- ・作品をつくる楽しさ

### ⇒ “次”につながる(学ぶ意欲の向上)

震災伝承

ご協力頂いた方々: まるオフィスMさん、  
気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館 S様、H様